

2024年度 卒業生・修了生キャリアアンケート調査結果

2024年5月1日現在

【Ⅰ. 調査の概要】

1. 調査対象

2023年3月に星美学園短期大学幼児保育学科を卒業または、専攻科幼児保育専攻を修了し、本学で取得した資格を活かして就職した卒業生を対象として実施した。主な資格（幼稚園教諭二種免許状、特別支援学校教諭二種免許状、保育士資格 等）
次の表「卒業生・修了生進路（就職・進学）状況」の、青色部分が幼児保育学科調査、緑色部分が専攻科幼児保育専攻の調査対象数となる。
※離職したことがわかっている卒業生・修了生については調査の対象から除外した。

2022年度卒業生・修了生進路（就職：進学）状況

学 科	幼児保育学科卒業生								専攻科幼児保育専攻修了生									
卒業/修了者数	79								58									
進路決定者数	(就職)7 (進学)70 (その他)2								(就職)57 (進学)0 (その他)1									
進路内訳	幼稚園	保育所	こども園	施設	特別支援学校	一般企業	その他	進学		幼稚園	保育所	こども園	公務員	施設	特別支援学校	一般企業	その他	進学
								専攻科	専門学校									大学
	1	0	1	1	0	4	2	69	1	5	25	3	5	9	7	3	1	0
進路決定率	100%								100%									

2. 調査期間及び方法

2023年12月～2024年2月9日の期間に実施した。アンケート調査依頼は、就職先と、社会人1年目、社会人2年目の卒業生・修了生に書面にて調査への協力の依頼をした。回答は、回答用紙に記入して、同封の返信用封筒で返送する、又はGoogle Formに入力する形で回答していただいた。なお、同一施設に複数の学生が就職している場合は、それぞれの学生について回答していただいた。

3. 回収率

2022年度卒業生 就職先は該当者なし。

2022年度修了生 就職先からの回答（保育・教育関係）は、46施設、49名中、33施設36人分の回答が得られ、回収率は74%であった。

2022年度卒業生（社会人1年目）は該当者なし。

2022年度修了生（社会人1年目）からの回答は、49名中、28名から回答が得られ、回収率は57%であった。

2021年度卒業生（社会人2年目）8名中、3名から回答が得られ、回収率は38%であった。

2021年度修了生（社会人2年目）からの回答は、39名中、17名から回答が得られ、回収率は44%であった。

4. 主旨と目的

本学の幼児保育学科、専攻科では、下記の「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」を掲げ、教育を行っている。その教育成果を自己評価するために、このたびアンケート調査を計画した。アンケート調査（別紙）の目的は、本学2022年度卒業生、修了生（2023年4月から勤務、社会人1年目）、2021年度卒業生、修了生（2022年4月から勤務、社会人2年目）が次のディプロマ・ポリシーを身につけているかを評価し、今後の本学の教育改善に結びつける。

星美学園短期大学の幼児保育学科ディプロマ・ポリシー

- 1. 保育の実践力：保育をする上で必要な基本的知識・技術を身につけ、説明、実践することができる。（知識技術）
- 2. 共感する心：子どもをいとおしむ心とまなざしをもち、子どもの立場に立って考えたり、共感することができる（共感愛情）
- 3. 言葉で表現する力：保育をする上で適切な言葉を用いて話す力、書く力を身につけている。（言葉遣い、文章を書く）
- 4. 人とのかかわる力：他者と協働しながら計画・実施・振り返り・改善する体験を通して、社会性を身につけている。（協働）

星美学園短期大学の専攻科ディプロマ・ポリシー

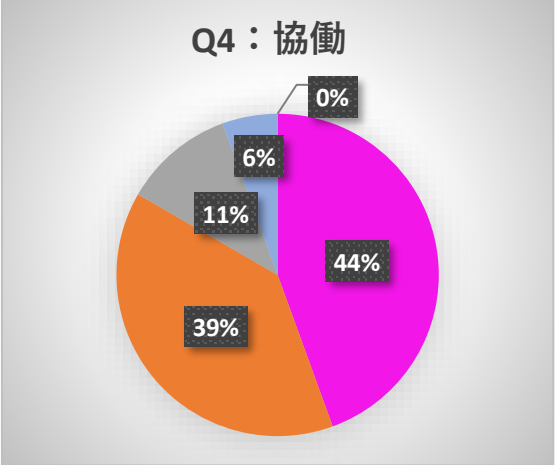
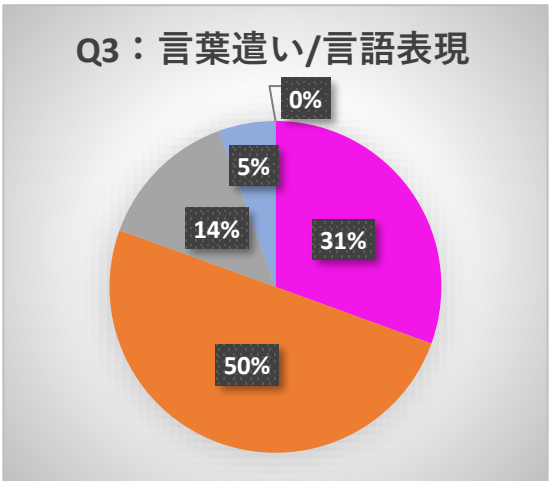
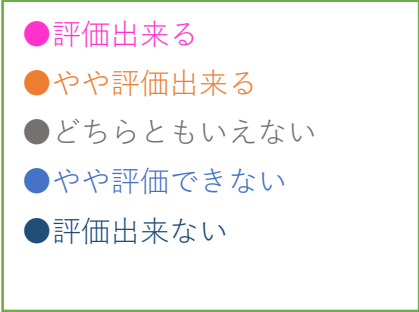
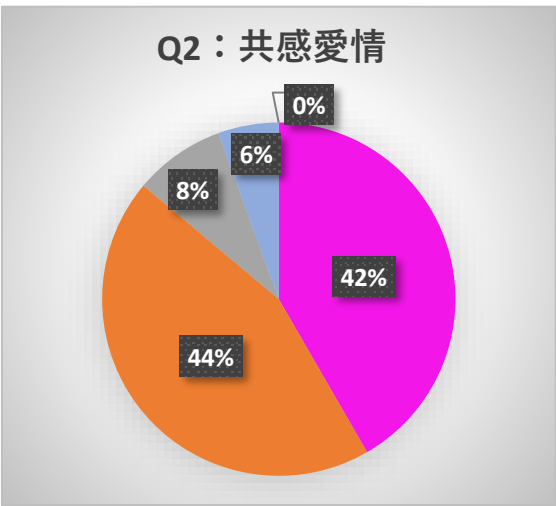
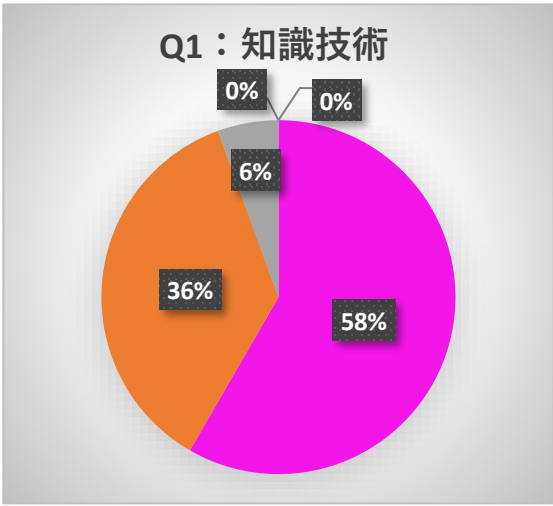
- 1. 保育の実践力：さまざまな保育技術のうち、自ら選んだ分野に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力することができる。（知識技術）
- 2. 共感する心：さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけている。（共感愛情）
- 3. 言葉で表現する力：保育や子どもにかかわる事象、諸問題を、文献や実践・現場調査から客観的な判断に基づいて説明することができる。（言葉遣い、文書を書く）
- 4. 人とのかかわる力：保育チームティーチングを行うために、チームの一員として協議や企画に積極的に参画することができる。（協働）

【Ⅱ. 2022年度修了生 就職先アンケート（就職先評価）】 n=36 （単位：件）

36名/49名 回収率74%

質問	1	2	3	4	5
Q1. 保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	21	13	2	0	0
Q2. さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	15	16	3	2	0
Q3. 保育（業務）を行う上で、適切な言葉遣いや言語表現ができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	11	18	5	2	0
Q4. 他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	16	14	4	2	0

※評価：1－評価出来る 2－やや評価できる 3－どちらとも言えない 4－やや評価できない 5－評価出来ない



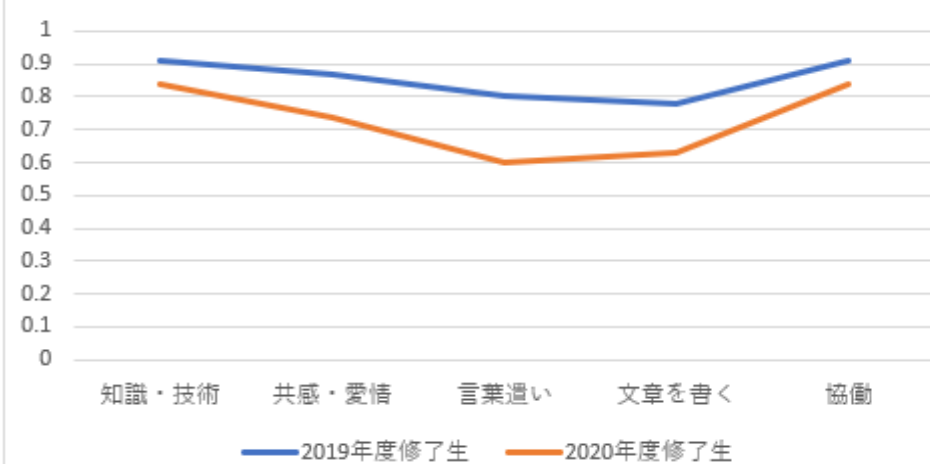
(小数点以下、四捨五入)

修了年度別 「評価できる・ややできる」の比率

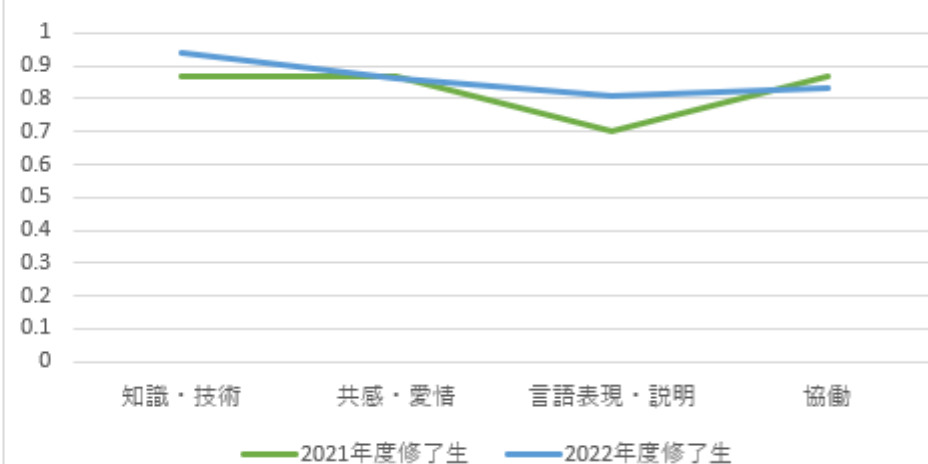
	知識・技術	共感・愛情	言葉遣い	文章を書く	協働
2019年度修了生	0.91	0.87	0.8	0.78	0.91
2020年度修了生	0.84	0.74	0.6	0.63	0.84
2021年度修了生	0.87	0.87		0.7	0.87
2022年度修了生	0.94	0.86		0.81	0.83

※2021年度よりディプロマ・ポリシーの項目数とアンケートの質問数を統一した。

修了年度別 「評価できる・ややできる」の比率



修了年度別 「評価できる・ややできる」の比率

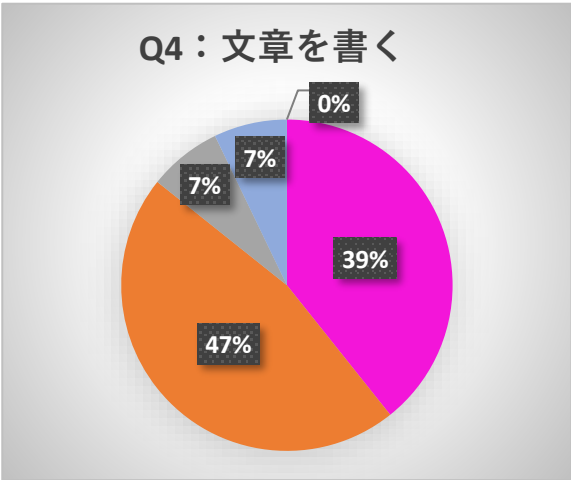
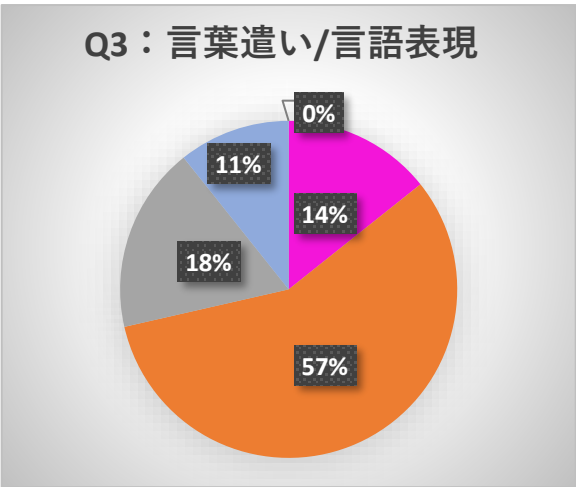
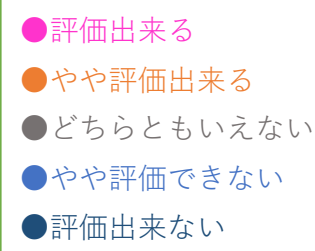
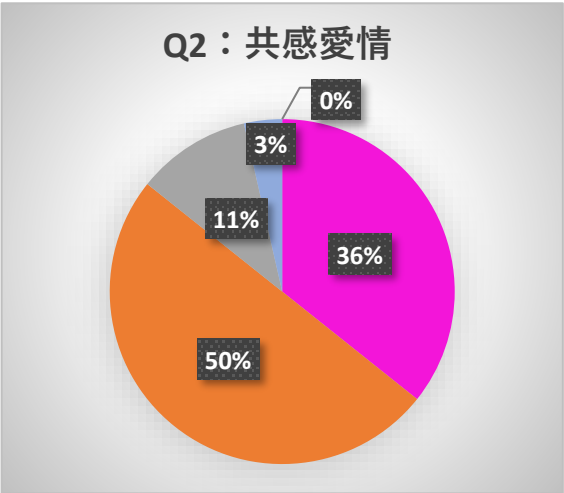
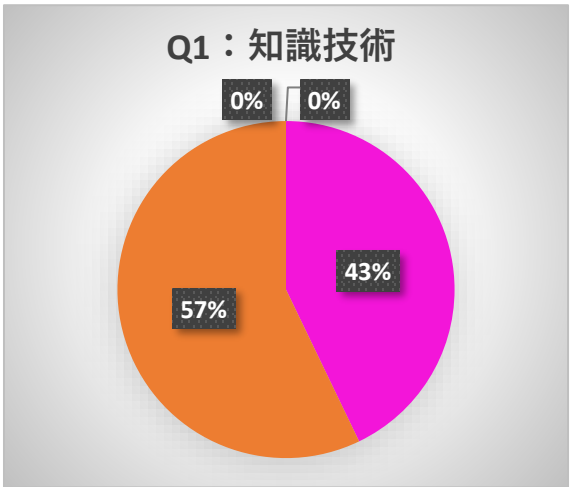


【Ⅲ. 2022年度修了生 キャリアアンケート（本人評価）、社会人1年目】 n=28 （単位：件）

28名/49名 回収率57%

質問	1	2	3	4	5
Q1. 保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	12	16	0	0	0
Q2. さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	10	14	3	1	0
Q3. 保育（業務）を行う上で、適切な言葉遣いや言語表現ができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	4	16	5	3	0
Q4. 他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	11	13	2	2	0

※評価： 1－評価出来る 2－やや評価できる 3－どちらとも言えない 4－やや評価できない 5－評価出来ない



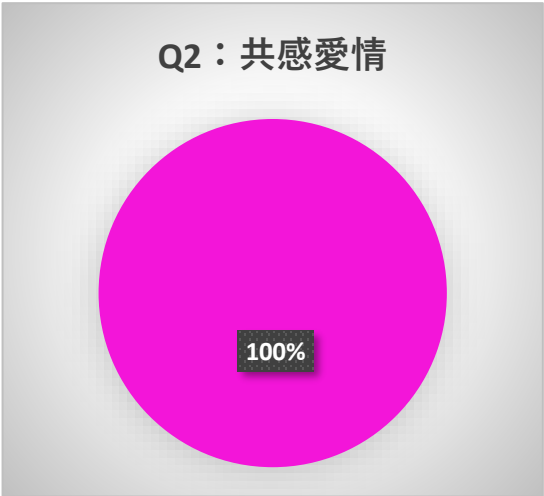
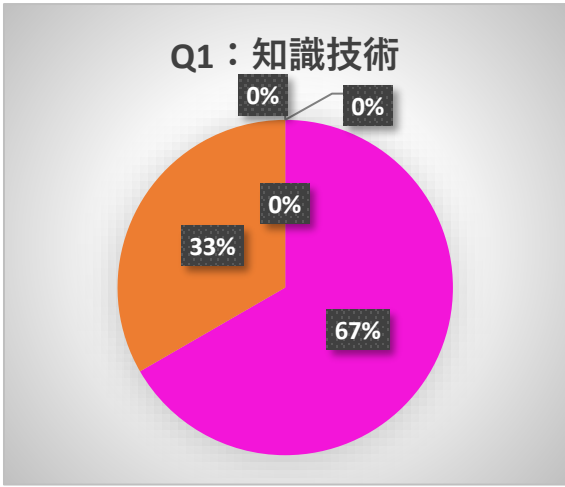
(小数点以下、四捨五入)

【Ⅳ. 2021年度卒業生 キャリアアンケート（本人評価）、社会人2年目】 n=3

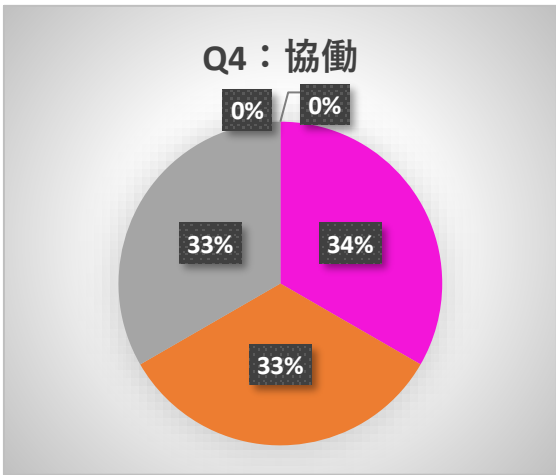
3名/8名 回収率38%

質問	1	2	3	4	5
Q1. 保育に関して必要な基本知識・技術を身につけ実践できていると評価できますか。	2	1	0	0	0
Q2. 子どもの立場に立って考え、子どもに共感しながら愛情深く関わっていると評価できますか。	3	0	0	0	0
Q3. 保育(業務)を行う上で、適切な言葉を用いて話す力、書く力を身につけていると評価できますか。	0	3	0	0	0
Q4. 他の職員と適切に協働できていると評価できますか。	1	1	1	0	0

※評価：1－評価出来る 2－やや評価できる 3－どちらとも言えない 4－やや評価できない 5－評価出来ない



- 評価出来る
- やや評価出来る
- どちらとも言えない
- やや評価できない
- 評価出来ない



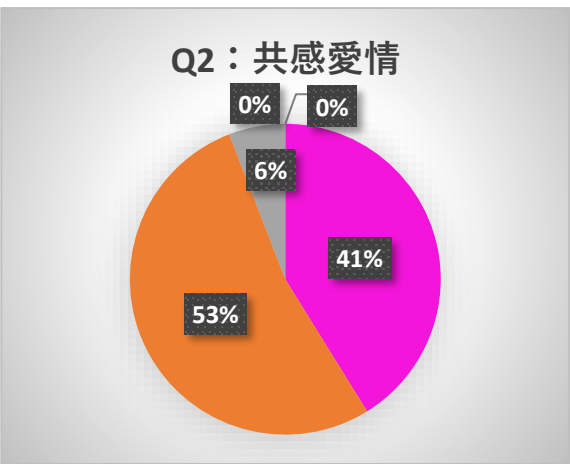
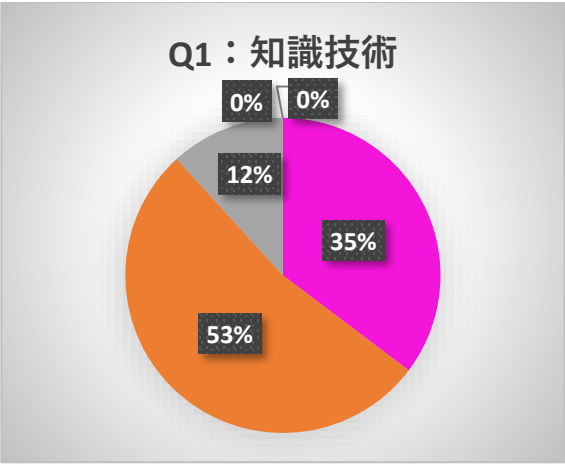
(小数点以下、四捨五入)

【Ⅴ. 2021年度修了生 キャリアアンケート（本人評価）、社会人2年目】 n=17

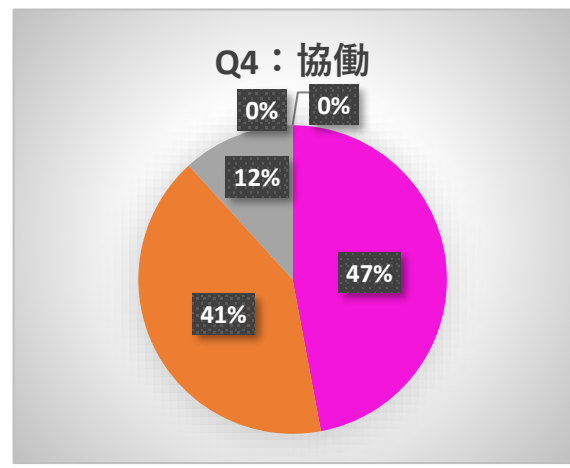
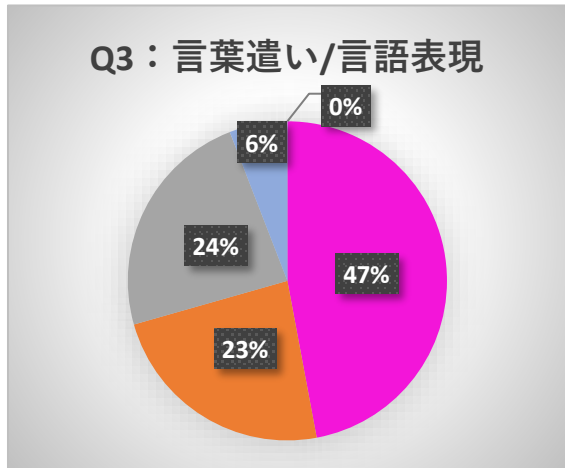
17名/39名 回収率44%

質問	1	2	3	4	5
Q1. 保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	6	9	2	0	0
Q2. さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	7	9	1	0	0
Q3. 保育（業務）を行う上で、適切な言葉遣いや言語表現ができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	8	4	4	1	0
Q4. 他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	8	7	2	0	0

※評価：1－評価出来る 2－やや評価できる 3－どちらとも言えない 4－やや評価できない 5－評価出来ない



- 評価出来る
- やや評価出来る
- どちらともいえない
- やや評価できない
- 評価出来ない



(小数点以下、四捨五入)